

教科名	数学	科目	数学Ⅱ（理系）	週授業時間	4単位
-----	----	----	---------	-------	-----

1. 教科書および副教材・参考書

改訂版 高等学校 数学Ⅱ（数研出版）

改訂版 高等学校 数学Ⅲ（数研出版）

改訂版 4プロセスⅡ+B（数研出版）

改訂版 4プロセスⅢ（数研出版）

2. 授業の目標および内容

昨年度の短縮授業の影響があり、「複素数と方程式」（数学Aでの残り）と「軌跡と領域」（数学Ⅰの残り）が今年度数学Ⅱで扱う内容に追加されることとなった。そのため、例年より遅れた形となり、「軌跡と領域（第3章 第3節）」、「複素数と方程式（第2章）」、「指数関数と対数関数（第5章）」を扱う。

2学期の授業では「三角関数（第3章）」を学習後、第6章「微分法と積分法（第2節まで）」を扱う。

3学期は第6章第3節と数学Ⅲの第4章「極限」、第5章「微分法」までを扱うことを目指す。

3. 試験について

	1学期		2学期		3学期
定期試験	一次 5月	二次 7月	一次 10月	二次 12月	期末 3月
学力試験	なし		第1回 9月		第2回 1月

進学クラスは主に基礎学力到達度テストに合わせた難易度設定で授業を行い、しっかりと学習すれば高得点が取れるように指導していく。また、特進クラスでは大学入学試験で多く取り上げられる話題も積極的に扱い、発展的な問題でも自ら学習できるような素地を身に付けさせていくことを目標とする。

内容・難易度について

- ① 定期試験：試験時間は50分とし、教科書の例題や練習問題に準じた問題を出題する。
授業中に実施したテストや副教材の問題集を利用して問題演習を中心に臨むことが大切である。
- ② 学力試験：試験時間は50分とし、授業の内容からやや発展させ、応用力を問う出題とする。試験範囲は原則として入学当初から学習した事全てとする。

4. 評価の視点

1・2学期：1次テスト素点+2次テスト素点/2 ± α

※ αは授業態度、提出物等を考慮して決定する。

授業計画

学期	単元	学習内容	備考
1	<p>【数学Ⅱ】</p> <p>第3節 軌跡と領域</p> <p>第2章 複素数と方程式</p> <p>第1節 複素数と 2次方程式の解</p> <p>第2節 高次方程式</p> <p>第5章 指数関数と対数関数</p> <p>第1節 指数関数</p> <p>第2節 対数関数</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・軌跡と方程式 ・不等式の表す領域 ・複素数とその計算 ・2次方程式の解 ・解と係数の関係 ・剰余の定理と因数定理 ・高次方程式 ・指数の拡張 ・指数関数 ・対数とその性質 ・対数関数 ・常用対数 	

2	<p>第 4 章 三角関数</p> <p>第 1 節 三角関数</p> <p>第 6 章 微分法と積分法</p> <p>第 1 節 微分法と導関数</p> <p>第 2 節 関数の値の変化</p> <p>第 3 節 積分法</p> <p>【数学Ⅲ】</p> <p>第 4 章 極限</p> <p>第 1 節 数列の極限</p> <p>第 2 節 関数の極限</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 角の拡張 ・ 三角関数 ・ 三角関数のグラフ ・ 三角関数の性質 ・ 三角関数の応用 ・ 加法定理 ・ 加法定理の応用 ・ 微分係数 ・ 導関数とその計算 ・ 接線の方程式 ・ 関数の増減と極大・極小 ・ 関数の増減・グラフの応用 ・ 不定積分 ・ 定積分 ・ 定積分と面積 ・ 数列の極限 ・ 無限等比数列 ・ 無限級数 ・ 関数の極限(1) ・ 関数の極限(2) ・ 三角関数と極限 ・ 関数の連続性 	
---	--	---	--

3	<p>第5章 微分法</p> <p>第1節 導関数</p> <p>第2節 いろいろな関数の導関数</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・微分係数と導関数 ・導関数の計算 ・いろいろな関数の導関数 ・第 n 次導関数 ・曲線の方程式と導関数 	
---	---	---	--